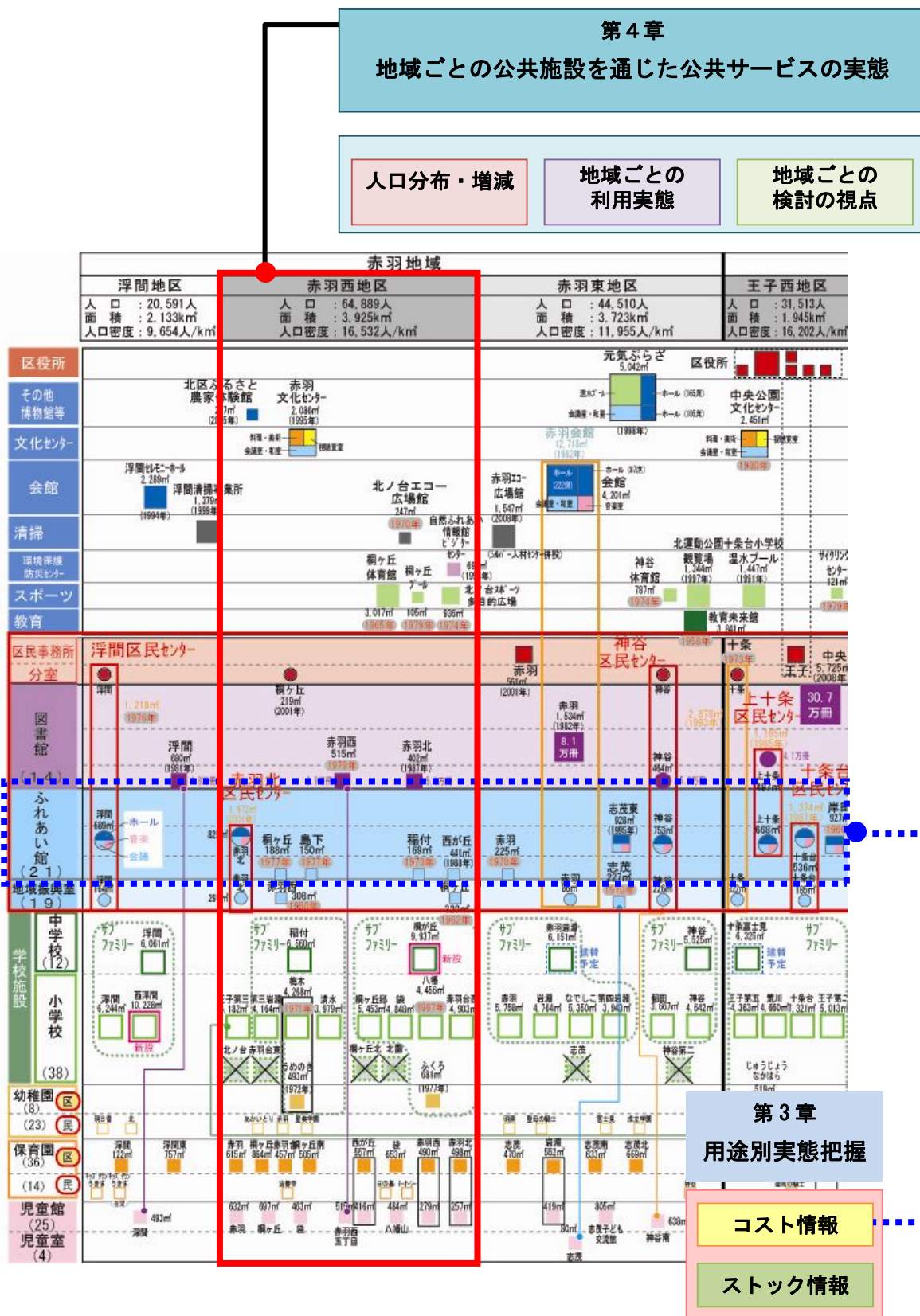


第4章 地域ごとの公共施設を通じた
行政サービスの実態

1. 地域ごとの実態把握

今後、本区で中長期的な視点に立ち、公共施設の効果的・効率的なマネジメントを推進していくためには、各地域の人口・地域特性を把握したうえで、地域内における公共施設の整備状況と利用実態を整理し、総合的に改善の方向性を検討する必要があります。

第4章では、下記7地域ごとに地域内の施設課題を抽出し、総合的に検討を行います。



2. 各地区の実態把握

(1) 浮間地区

浮間地区

〈地区の特色〉

概要

浮間地区は新河岸川の北側の低地部に位置しています。人口は約 2.1 万人で、7地区の中で最も少なくなっています。

面積は約 2.1 km²で、王子西地区(約 2.0 km²)、滝野川東地区(2.2 km²)と並び7地区の中では小さい。人口密度は約 1.0 万人/km²と7地区の中で最も低くなっています。

JR 埼京線の北赤羽駅と浮間舟渡駅があります。

人口

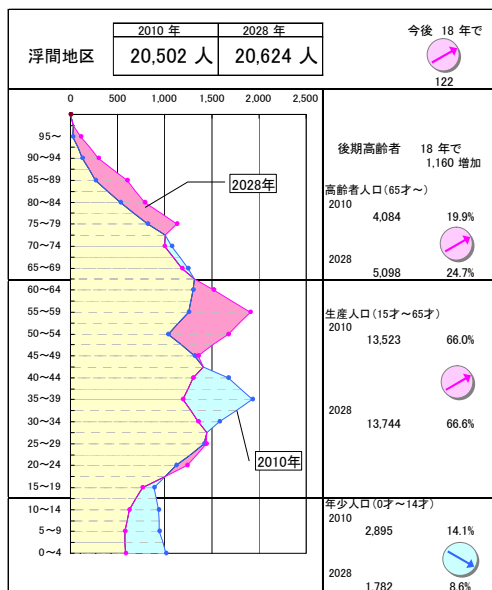
浮間地区の人口の総数は過去5年間で7.0%増加しています。将来推計でも今後18年間で0.6%の微増が見込まれています。

現状、高齢人口比率(19.9%)は、区全体でみた数字(24.6%)を下回り、7地区の中で最も低いです。今後、一貫して上昇し、平成40年(2028年)には24.7%となります。

現状、年少人口比率(14.1%)は、区全体でみた数字(9.7%)を上回り、7地区の中で最も高いです。今後、一貫して低下し、平成40年には8.6%となります。

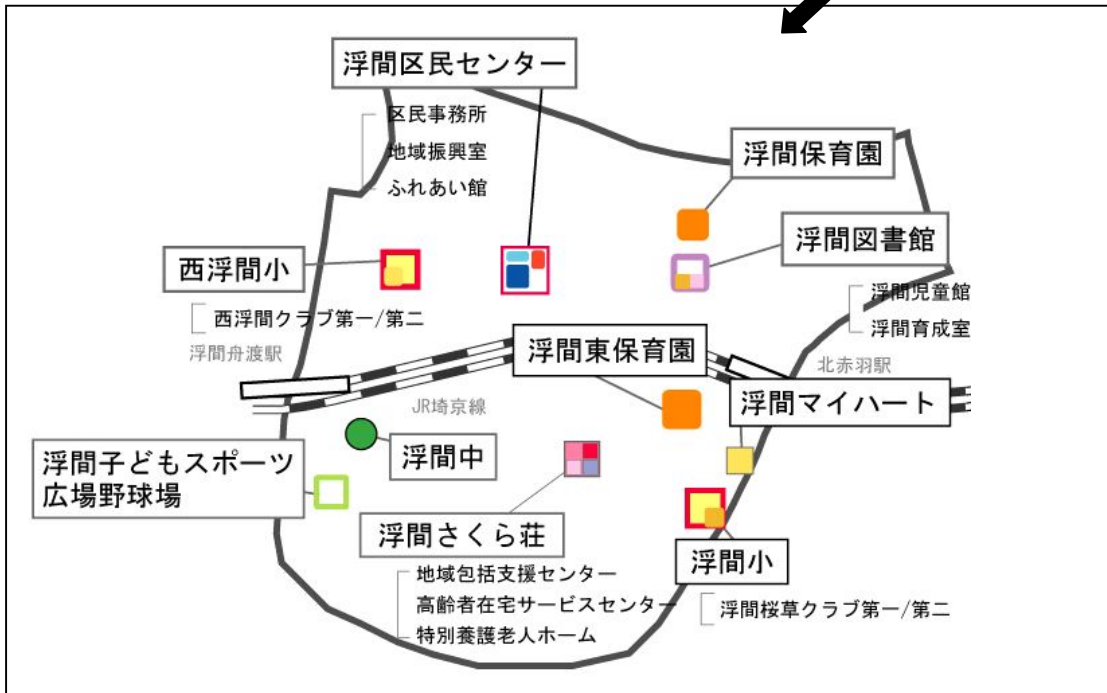
大規模集合住宅(分譲約250戸)の開発が予定されています。

〈人口構成及び変化〉



データ出所：
北区人口推計調査報告書(平成20年3月発行)
北区行政資料集(平成22年9月発行)
北区人口統計表

図 浮間地区 公共施設配置図



① 用途ごとの実態把握（浮間地区）

■地域コミュニティ施設

浮間ふれあい館は、利用件数が少なく、低い稼働率です。
浮間地域振興室の、会議室及び活動コーナーの利用は低い状態です。
浮間図書館は、年間約 15 万人の入館者があります。
区民事務所浮間分室の利用は年間約 1.9 万件あります。

■学校

浮間小学校の普通教室は 33 教室あり、そのうち普通学級および特別支援教育等として 16 教室、他の目的で 17 教室使用、転用しています。

西浮間小学校の普通教室は 24 教室あり、そのうち普通学級として 18 教室、他の目的で 6 教室使用しています。

浮間中学校の普通教室は 22 教室あり、そのうち普通学級として 12 教室、他の目的で 10 教室使用、転用しています。

■児童施設

児童館は、浮間地区には 1 館配置されていて、区内の施設では平均的な利用度です。
浮間地区には区立幼稚園はありませんが、区立保育園が 2 園あり、いずれも定員はほぼ満員の状況です。

② 地域としての課題（浮間地区）

<施設の老朽化対応検討>

浮間区民センター（区民事務所分室、ふれあい館、地域振興室）は、耐震安全性が確保されていますが、建設は昭和 51 年度と築 30 年を超えており、今後は老朽化対策の検討が必要になります。

<複合施設のあり方検討>

浮間区民センターは、稼働率の低いふれあい館、区民利用度の低い地域振興室、分室としては平均的な利用度のある区民事務所分室とで構成されており、利用度の向上を始め、複合施設としての特徴を生かせる方策の検討が望まれます。

平均的な利用のある図書館と児童館は、複合施設としての特徴を生かせる方策の検討が望まれます。

<今後のニーズへの対応と施設サービスのあり方>

荒川と新河岸川で囲まれ独立性の高い地区であるため、地区内での地域対応施設の充足が必要と考えられます。

浮間地区の人口は約 2 万人で、今後 5 年間は人口の増加が見込まれていますが、その後は横ばいとなるため、区内の地区では最も人口が少ないことと考え合わせ、効率的な施設運営が望まれます。

(2) 赤羽西地区

赤羽西地区

〈地区の特色〉

概要

赤羽西地区は JR 京浜東北線の西側、環七通りの北側の台地部に位置しています。

人口は約 6.1 万人で、滝野川西地区（約 6.6 万人）、王子東地区（約 6.4 万人）に次ぐ規模です。面積は約 3.9 km²で、7地区の中最も大きい。人口密度は約 1.6 万人/km²と、7地区の中では、王子東（約 1.9 万人/km²）、滝野川西（約 1.9 万人/km²）に次ぐ高い水準にあります。

JR 京浜東北線及び JR 埼京線の赤羽駅、JR 埼京線の北赤羽駅があります。

人口

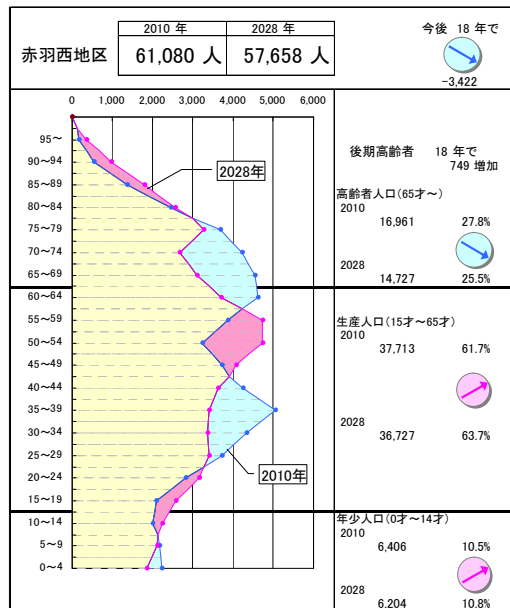
人口は過去 5 年間で 3.1%増加していますが、将来推計では今後 18 年間で 5.6%の減少が見込まれています。

現状、高齢人口比率（27.8%）は、区全体でみた数字（24.6%）を上回り、7地区の中で最も高い。今後、平成 29 年（2017 年）の 29.5%まで上昇した後、低下に転じ、平成 40 年（2028 年）には 25.5%となります。

現状、年少人口比率（10.5%）は、区全体でみた数字（9.7%）を上回る。今後、緩やかに上昇し、平成 40 年には 10.8%となり、7地区の中では最も高くなります。

赤羽台及び桐ヶ丘において大規模集合住宅（賃貸約 2,800 戸）の開発が予定されています。

〈人口構成及び変化〉



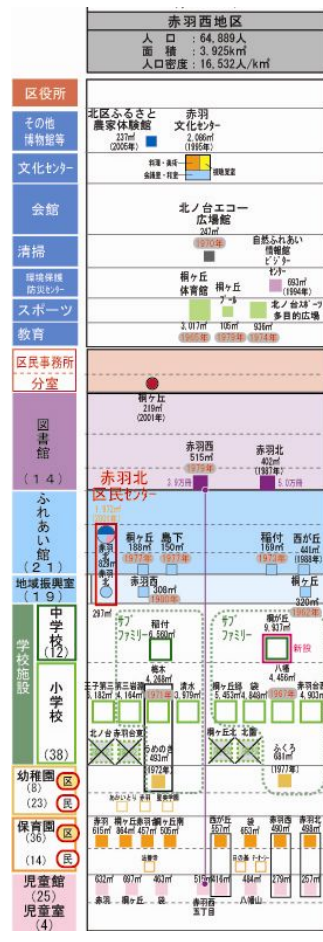
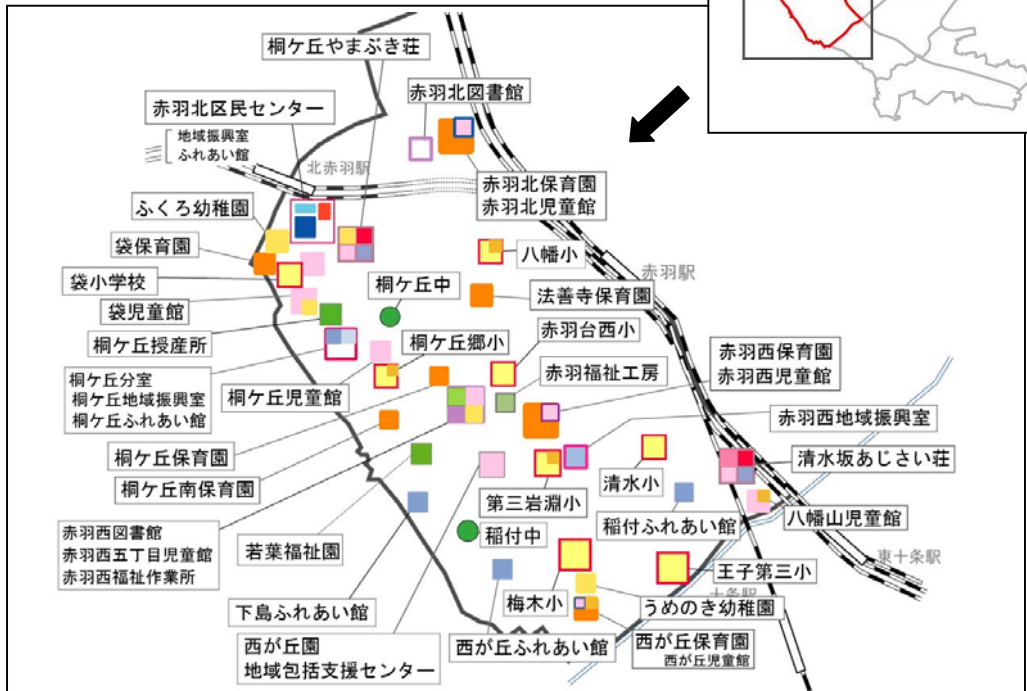
データ出所：

北区人口推計調査報告書（平成 20 年 3 月発行）

北区行政資料集（平成 22 年 9 月発行）

北区人口統計表

図 赤羽西地区 公共施設配置図



① 用途ごとの実態把握（赤羽西地区）

■地域コミュニティ施設

ふれあい館は5館ありますが、赤羽北区民センター内の赤羽北ふれあい館を除き、4館が単独館となっており、そのうち3館は築30年以上となっているため、今後老朽化対策の検討が必要です。また、赤羽北ふれあい館以外は、利用数も少なく稼働率も低い状況です。

地域振興室は3室あり、赤羽西地域振興室の会議室は、地域団体の利用がほとんどを占めています。また赤羽北地域振興室の活動コーナーは他の2室より多く利用されています。

赤羽区民事務所桐ヶ丘分室は、年間約1.6万件の利用があります。

赤羽西、赤羽北図書館の利用はそれぞれ年間約9.6万人、8.4万人といずれも地区館の平均利用者数を下回っており、利用が少なくなっています。

■学校

8校ある小学校全体では普通教室が153教室あり、そのうち普通学級および特別支援教育等として89教室、他の目的で64教室使用、転用しています。学童クラブが設置されているのは、第三岩淵、八幡小学校の2校です。

桐ヶ丘中学校は、普通教室が16教室あり、普通学級および特別支援教育等として13教室、他の目的で3教室使用しています。稲付中学校は普通教室が23教室あり、普通学級および特別支援教育等として14教室、他の目的で9教室使用、転用しています。

■児童施設

赤羽西地区には区立保育園が8園あり、ほぼ満員となっています。区立幼稚園が2園あり定員充足率は、87%と78%です。

児童館は分室を含めると、10館あり、施設数は地区としては最大数です。築30年以上の古い施設が多く、老朽化対策の検討が必要です。赤羽西5丁目、袋、西が丘児童館の順に利用が多い施設です。

② 地域としての課題（赤羽西地区）

＜施設の老朽化対応検討＞

ふれあい館、児童館とも築30年以上の古い施設が多く、老朽化対策の検討が必要です。

＜複合施設のあり方検討＞

赤羽北区民センターは、ふれあい館と地域振興室の複合で、そのほかのふれあい館、地域振興室、区民事務所分室、図書館2館は全て単独で設置されており、複合による効率化が図られていません。

＜今後のニーズへの対応と施設サービスのあり方＞

区内3番目の人口があり、今後、赤羽台及び桐ヶ丘周辺で開発が見込まれるなど、区民のニーズに応えられる施設のあり方を、複合化による効率化と施設機能の向上と合わせ検討を行っていく必要があります。

① 用途ごとの実態把握（赤羽東地区）

■地域コミュニティ施設

3館あるふれあい館のうち、1施設は区民センター内にある複合施設ですが、他の2館は単独館です。利用も低く、赤羽ふれあい館は築30年以上で今後老朽化対策の検討が必要です。

地域振興室は3室ありますが、赤羽地域振興室は赤羽会館に、神谷地域振興室は区民センターに、志茂地域振興室は児童館と併設されています。

赤羽区民事務所と赤羽区民事務所神谷分室が地区内にあり、赤羽区民事務所は18.1万件の利用があります。

拠点館の赤羽図書館が赤羽会館内に、地区館の神谷図書館が神谷区民センター内に配置されています。

■学校

6校ある小学校全体では普通教室が117教室あり、そのうち普通学級および特別支援教育等として61教室、他の目的で56教室使用、転用しています。学童クラブが設置されているのは、赤羽、岩淵の2校です。

赤羽岩淵中学校の普通教室は23教室あり、普通学級および特別支援教育等で18教室、他の目的で5教室使用しています。神谷中学校の普通教室は19教室あり、普通学級として7教室、他の目的で12教室使用、転用しています。

■児童施設

区立保育園は4園あり84%から92%の在園率です。志茂保育園と岩淵保育園は築30年以上経っており、今後老朽化対策の検討が必要です。区立幼稚園は赤羽東地区にはありません。

岩淵児童館、神谷南児童館、志茂こども交流館の3館が地区内にあり、いずれも多く利用されています。岩淵児童館は、築30年以上経っており、今後老朽化対策の検討が必要です。

■広域対応施設

赤羽会館は赤羽駅にも近く、利便性が高いため年間約47.6万人の利用者があります。

元気がらざは、年間を通して温水プールが利用可能で、年間約16.8万人が訪れています。

② 地域としての課題（赤羽東地区）

<施設の老朽化対応検討>

単独で設置されているふれあい館、地域振興室及び保育園、児童館には築30年以上の古い施設が多く、老朽化対策の検討が必要です。

<複合施設のあり方検討>

区民センターは神谷区民センター1施設のみで、その他の複合施設として赤羽会館と赤羽図書館があります。施設の規模、機能、組み合わせが様々な状態ですが、複合化することで効率化を図ることができる可能性があります。今後、区民が利用しやすい複合施設のあり方を検討する必要があります。

<今後のニーズへの対応と施設サービスのあり方>

人口規模は約4.4万人で、7地区の中では中間の規模です。今後5年間で微増した後、減少していく見込みです。今後とも施設運営の合理化を図りながら、施設機能のあり方を複合化と合わせ検討を行っていく必要があります。

(4) 王子西地区

王子西地区

〈地区の特色〉

概要

王子西地区は、JR 京浜東北線の西側、環七通りの南側の台地部に位置しています。

人口は約 3.1 万人で 7 地区の中では中規模です。

面積は約 2.0 km²で、浮間(約 2.1 km²)、滝野川東(約 2.2 km²)と並び 7 地区の中では小さい。人口密度は約 1.6 万人/km²と王子東(約 1.9 万人/km²)、滝野川西(約 1.9 万人/km²)に次ぐ水準にあります。

JR 京浜東北線の東十条駅、王子駅、JR 埼京線の十条駅、地下鉄南北線の王子駅があります。

② 人口

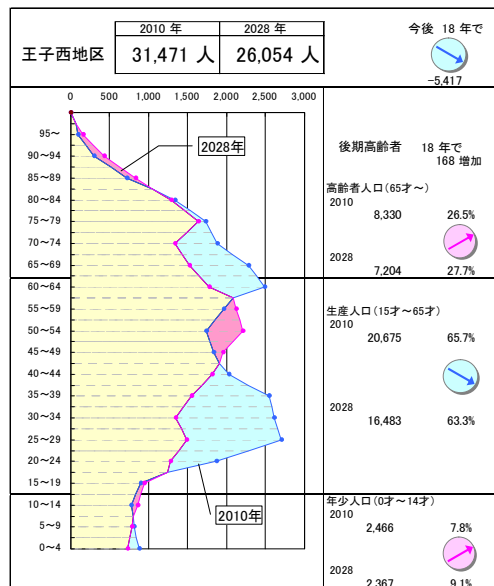
人口は過去 5 年間では 0.4%減少しており、将来推計でも今後 18 年間で 17.2%の減少が見込まれています。

高齢人口比率(26.5%)は区全体でみた数字(24.6%)を上回っている。今後、平成 29 年の 29.1%まで上昇した後、低下に転じ、平成 40 年には 27.7%となるが、7 地区の中では最も高い数字となっています。

現状、年少人口比率(7.8%)は、区全体でみた数字(9.7%)を下回り、7 地区の中で最も低い。今後上昇し、平成 34 年に 9.8%を示した後、低下に転じ、平成 40 年には 9.1%となります。

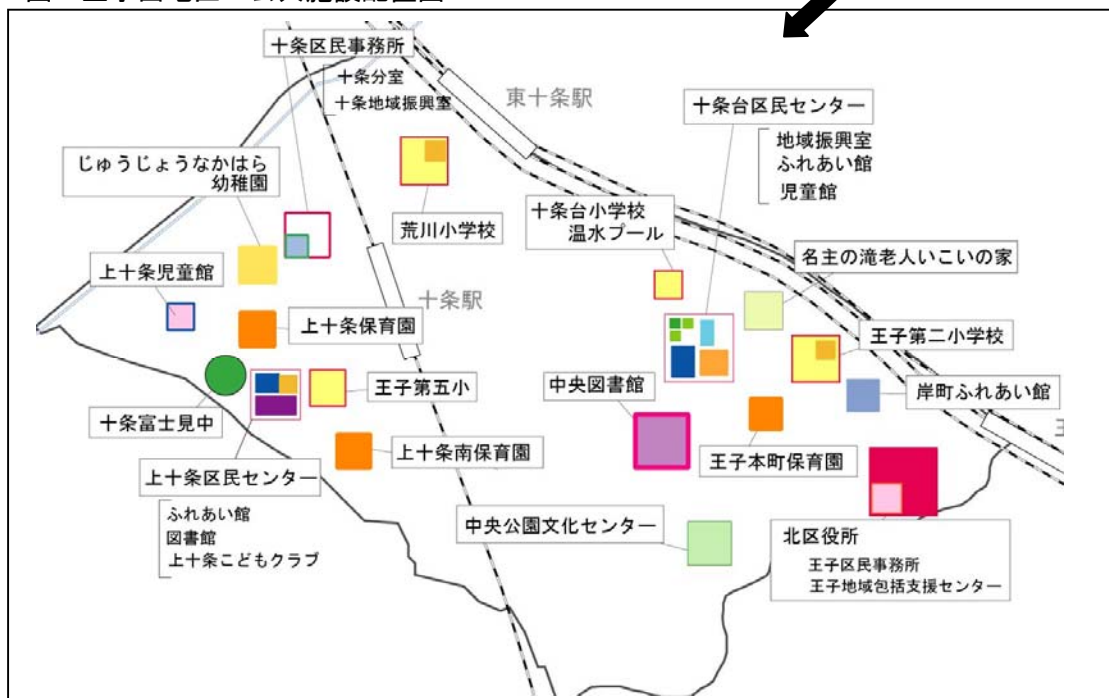
・十条駅前再開発にともない住宅の増加が予想されています。

〈人口構成及び変化〉



データ出所：
 北区人口推計調査報告書(平成 20 年 3 月発行)
 北区行政資料集(平成 22 年 9 月発行)
 北区人口統計表

図 王子西地区 公共施設配置図



① 用途ごとの実態把握（王子西地区）

■地域コミュニティ施設

岸町ふれあい館は単独館ですが、年間利用人数が約 8.6 万人とふれあい館では 2 番目に多く利用されています。区民センター内に設置されている十条台ふれあい館は約 4.0 万人、上十条ふれあい館は約 3.5 万人の利用があります。十条台地域振興室は会議室、活動コーナーとも利用が多くなっています。

王子区民事務所が区役所第二庁舎に配置されており、区民事務所として最も多い年間 20.1 万件の利用があります。王子区民事務所十条分室の利用は年間約 1.9 万件です。

■区民センター等複合施設

岸町ふれあい館が単独施設ですが、それ以外の施設は複合化されています。上十条区民センターは図書館とふれあい館、十条台区民センターはふれあい館と地域振興室、十条地域振興室には、王子区民事務所十条分室が併設されています。複合化による機能の組み合わせは様々で、統一されていません。

■学校

王子第二小学校と荒川小学校はそれぞれ普通教室が 22 教室あり、普通学級として 6 教室、他の目的で 16 教室使用、転用しています。王子第五小学校は普通教室が 21 教室あり、普通学級として 11 教室、他の目的で 10 教室使用しています。十条台小学校は普通教室が 17 教室あり、普通学級として 7 教室、他の目的で 10 教室使用、転用しています。

十条富士見中学校は普通教室が 23 教室あり、普通学級として 10 教室、他の目的で 13 教室使用しています。十条富士見中学校は平成 24 年度に新築移転する予定です、

■児童施設

区立保育園は 3 園、区立幼稚園は 1 園、児童館は 2 館あります。

■区役所

第一庁舎は築 50 年、第二庁舎は築 47 年、第四庁舎は築 49 年を経過しており、老朽化が進んでいるため、庁舎のあり方について検討を進め平成 22 年 3 月に「改築を基本的な方向として、必要な対策・検討を行っていくものとする。」という基本方針を策定しています。

■広域対応施設

中央図書館は年間約 86 万人の入館者があり、多く利用されています。

十条台小学校温水プールは、年間約 5.5 万人の利用があります。（学校の授業等の使用を除く）個人利用の他に、区主催事業や団体貸出にも利用されています。

② 地域としての課題（王子西地区）

<施設の老朽化対応検討>

区役所は築 40 年を超える庁舎が複数施設あり、将来的なあり方の検討が必要な時期になっています。利用度の高い岸町ふれあい館も築年数が 40 年以上と、老朽化対策の検討が必要です。

<複合施設のあり方検討>

地区内にあるふれあい館は 3 館ありますが、複合する機能が全て異なります。また、区民センターが 2 施設ありますが、それぞれ含まれる機能が異なります。地域対応機能を複合させる場合の、望ましい施設のあり方の検討が必要です。

<今後のニーズへの対応と施設サービスのあり方>

区役所内には、区民事務所や地域包括支援センターなどもあり、とても利用者が多いため、地域対応施設の配置には区役所の将来的な姿を含めた検討を行う必要があります。

現状の地域対応施設の施設構成、複合のあり方が、区民のニーズに沿っているかどうか検討が必要と考えられます。

(5) 王子東地区

王子東地区

〈地区の特色〉

概要

王子東地区は JR 京浜東北線の東側、環七通りの南側の低地部に位置する。人口は約 6.4 万人で滝野川西地区（約 6.6 万人）に次ぐ規模である。

面積は約 3.3 km²で、滝野川西地区に並び、赤羽西地区（約 3.9 km²）、赤羽東地区（3.7 km²）に次ぐ規模である。人口密度は約 1.9 万人/km²と滝野川西地区（約 1.9 万人/km²）に並んで、7地区の中で最も高い水準にある。

JR 京浜東北線の東十条駅、王子駅、地下鉄南北線の王子神谷駅、王子駅、都電荒川線の王子駅前がある。

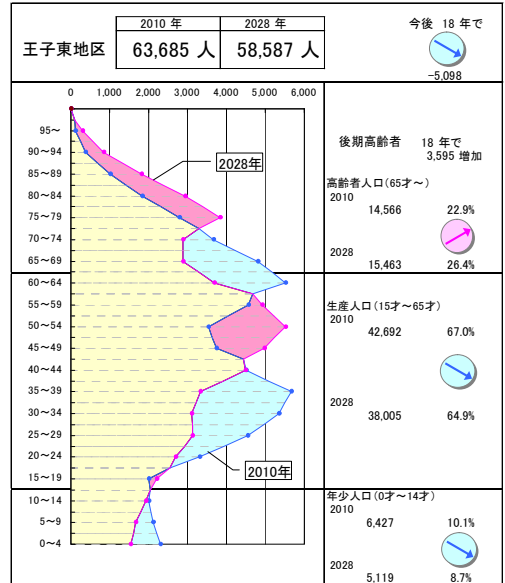
人口

人口は過去 5 年間で 0.2% 減少しており、将来推計でも今後 18 年間で 8.0% の減少が見込まれている。

高齢人口比率（22.9%）は、区全体でみた数字（24.6%）を下回るが、今後上昇し、平成 33 年の 27.5% を示した後、低下に転じ、平成 40 年には 26.4% となる。

年少人口比率（10.1%）は、区全体（9.7%）を上回っている。今後やや上昇するが、平成 26 年に 10.5% を示した後は低下に転じ、平成 40 年には 8.7% となる。

〈人口構成及び変化〉



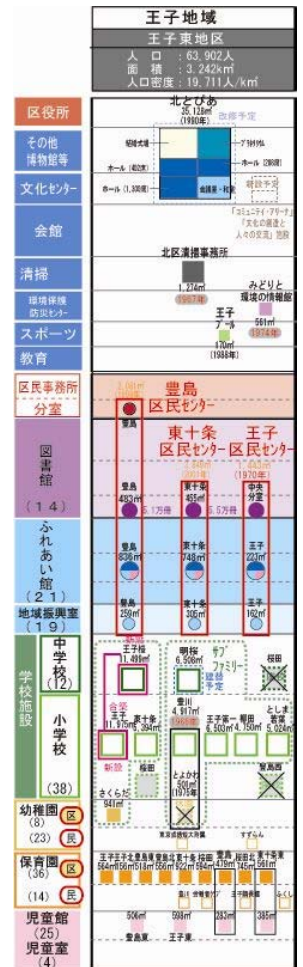
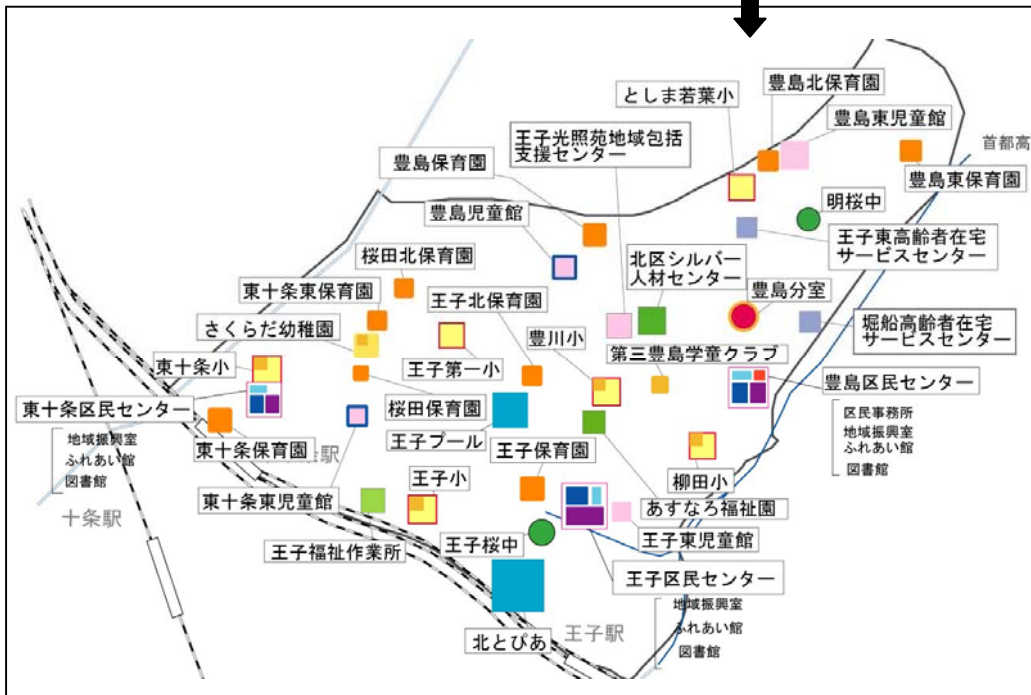
データ出所：

北区人口推計調査報告書（平成 20 年 3 月発行）

北区行政資料集（平成 22 年 9 月発行）

北区人口統計表

図 王子東地区 公共施設配置図



① 用途ごとの実態把握（王子東地区）

■地域コミュニティ施設

東十条ふれあい館は、東十条駅に近く利便性も高いため、年間約 7.9 万人が利用しています。

地域振興室では、東十条地域振興室の会議室・活動コーナーの利用が多くなっています。

王子区民事務所豊島分室の利用は、分室の中では最も多い年間約 2.4 件の利用があります。立地上、他の施設の利用が難しく、周辺住民の利用が集まるためと考えられます。

利便性の良い東十条図書館の利用度が高く、年間約 27.8 万人が利用しており、地区図書館の中では最も利用者が多くなっています。

■区民センター等複合施設

ふれあい館、地域振興室、地区図書館、区民事務所分室は、全て区民センター内に配置され、地域対応施設の複合化は王子東地区では実現されています。

■学校

小学校は、平成 20 年に建てられた王子小学校を除くと、築 39 年から 52 年経過しており、老朽化対策の必要があります。王子第一小学校の普通教室は 34 教室あり、普通学級および特別支援教育等として 22 教室使用しています。柳田小学校の普通教室は 19 教室あり、普通学級として 6 教室使用しています。柳田小学校の普通教室は 19 教室あり、普通教室として 6 教室使用しています。東十条小学校の普通教室は 23 教室あり、普通学級として 12 教室使用しています。としま若葉小学校の普通教室は 20 教室あり、普通学級として 8 教室使用しています。

中学校は、平成 20 年に王子桜中学校が新築されています。また明桜中学校が築 38 年を経過していますが、平成 23 年 4 月に新築移転します。

■児童施設

9 園ある区立保育園の内、8 園は築 34~47 年経過しており、老朽化対策の検討が必要です。

地区内唯一の区立幼稚園であるさくらだ幼稚園、平成 21 年に大規模改修を行った王子東児童館を除く 3 つの児童館も同様に、老朽化対策の検討が必要です。

■広域対応施設

北とぴあは、1300 席の設備を持つさくらホールをはじめ多くのホールや会議室を持ち、区内外から年間約 201.2 万人の利用者を集めています。

② 地域としての課題（王子東地区）

<施設の老朽化対応検討>

保育園、幼稚園、児童館は老朽化が進み、今後対策を検討する必要があります。

<複合施設のあり方検討>

ふれあい館、地域振興室、区民事務所分室、図書館といった地域対応施設の複合化は既に成し遂げられています。利用状況を十分検証し、運営の効率化を図っていく必要があります。

<今後のニーズへの対応と施設サービスのあり方>

北とぴあという大型の広域対応施設を抱えている王子東地区では、地域対応施設の連動のあり方を探り、効率的な行政サービスのあり方を検討する必要があります。

(6) 滝野川西地区

滝野川西地区

〈地区の特色〉

概要

滝野川西地区は、JR 京浜東北線の西側、石神井川の南側の台地部に位置しています。

人口は約 6.6 万人で 7 地区の中最も多くなっています。面積は 3.4 km²で、赤羽西 (3.9 km²)、赤羽東 (3.7 km²) に次ぐ規模である。人口密度は約 1.9 万人/km²と王子東に並んで、北区の中で最も高い水準にあります。

JR 京浜東北線の王子駅、上中里駅、田端駅、JR 埼京線の板橋駅、地下鉄南北線の王子駅、西ヶ原駅、都電荒川線の飛鳥山、滝野川一丁目、西ヶ原四丁目があります。

人口

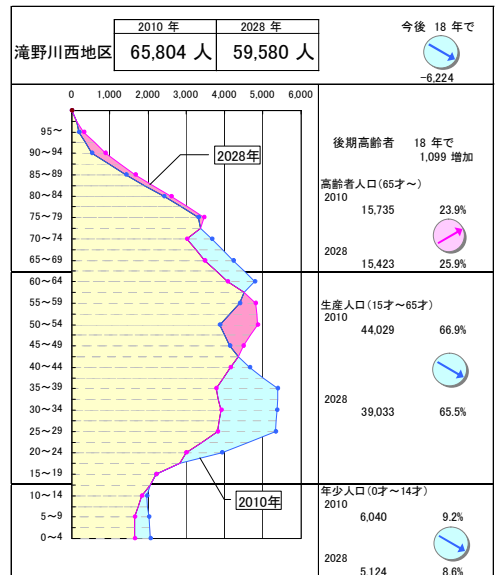
人口は過去 5 年間で 0.4% 減少しており、将来推計でも今後 18 年間で 9.5% の減少が見込まれています。

高齢人口比率 (23.9%) は、区全体でみた数字 (24.6%) を下回るが、今後上昇し、平成 30 年の 26.3% を示した後、低下に転じ、平成 40 年には 25.9% となっています。

年少人口比率 (9.2%) は、区全体でみた数字 (9.7%) を下回っている。今後、やや上昇するが、平成 24 年に 9.5% を示した後は低下に転じ、平成 40 年には 8.6% となっています。

大規模集合住宅 (分譲約 270 戸、賃貸約 340 戸) の開発が予定されています。

〈人口構成及び変化〉



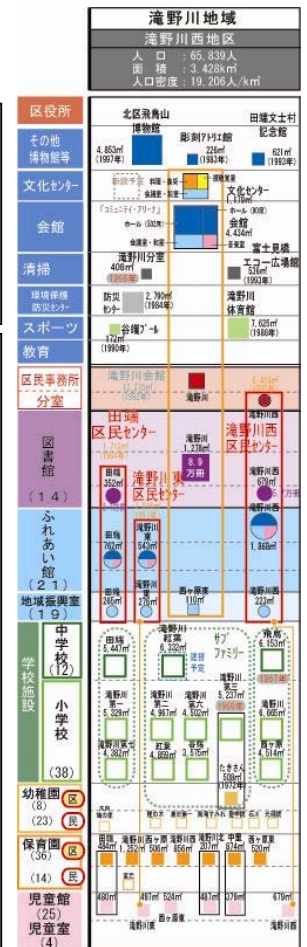
データ出所：

北区人口推計調査報告書 (平成 20 年 3 月発行)

北区行政資料集 (平成 22 年 9 月発行)

北区人口統計表

図 滝野川西地区 公共施設配置



① 用途ごとの実態把握（滝野川西地区）

■地域コミュニティ施設

滝野川西ふれあい館は、年間約 9.2 万人と区内で最も利用人数の多いふれあい館です。

地区内で会議室の利用が最も多い地域振興室は、滝野川西地域振興室です。

滝野川区民事務所は、区内に 3 つある区民事務所の中では最も利用が少なく、年間約 8.5 万件の利用件数となっています。

■区民センター等複合施設

全ての地域対応施設は複合化されていますが、複合形態がそれぞれ異なります。規模の大きい滝野川会館と複合されている滝野川区民事務所、拠点図書館である滝野川図書館や、それぞれ異なった組み合わせを持つ、田端、滝野川東、滝野川西区民センターがあります。

■学校

地区内に 9 つの小学校があり区内では最も小学校の数が多い地区です。すべての小学校が築 30 年を超えており、老朽化対策の検討が必要です。小学校全 9 校で普通教室は 200 教室あり、普通学級として 92 教室使用しています。

3 つある中学校は、いずれも築 30 年を超えており、老朽化対策の検討が必要です。中学校全 3 校で普通教室は 67 教室あり、普通学級及び特別支援教育等で 27 教室使用しています。

■児童施設

すべての保育園、幼稚園が築 30 年を超えており、大規模改修を行っている施設はありますが、老朽化対策の検討が必要です。西ヶ原東児童館を除く 6 つの児童館・児童室が築 30 年を超えており、老朽化対策の検討が必要です。

■広域対応施設

ホールや会議室の機能を持つ滝野川会館は年間約 32.5 万人の利用者があります。

② 地域としての課題（滝野川西地区）

<施設の老朽化対応検討>

すべての保育園、幼稚園、小学校、中学校及び大部分の児童館が築 30 年を超えており、老朽化対策の検討が必要です。

<複合施設のあり方検討>

滝野川西地区では、地域対応施設は全て複合化がされておりますが、それぞれ異なった組み合わせとなっており、それぞれのケースにおける複合によるメリットを見極め、利用の促進と運営の効率化を図っていく必要があります。

<今後のニーズへの対応と施設サービスのあり方>

広域対応施設としての滝野川会館、その中に設置されている滝野川区民事務所は、同等機能の施設と比較して利用状況が低い状態であるため、複合によるメリットの創出を含め利用の促進を図っていく必要があります。

(7) 滝野川東地区

滝野川東地区

〈地区の特色〉

概要

滝野川東地区は、JR 京浜東北線の東側、石神井川の南側の低地部に位置しています。

人口は約 2.8 万人で、浮間地区（約 2.1 万人）の次に小さな規模です。

面積は約 2.2 km²で、浮間地区（2.1 km²）、王子西地区（2.0 km²）と並び 7 地区の中では小さい。人口密度は約 1.3 万人/km²で、赤羽東地区と並んで浮間地区（約 1.0 万人/km²）の次に低い水準です。

JR 京浜東北線の王子駅、上中里駅、田端駅、東北本線の尾久駅、都電荒川線の王子駅前、栄町、梶原があります。

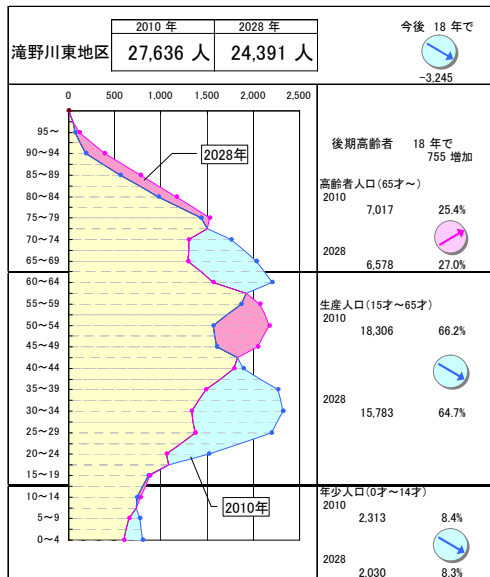
人口

滝野川東地区の人口の総数は過去 5 年間で 1.0%減少しており、将来推計でも今後 18 年間で 11.7%の減少が見込まれています。

現状、高齢人口比率（25.4%）は、区全体でみた数字（24.6%）を上回っています。今後上昇し、平成 31 年（2019 年）の 28.5%を示した後、低下に転じ、平成 40 年には 27.0%となります。

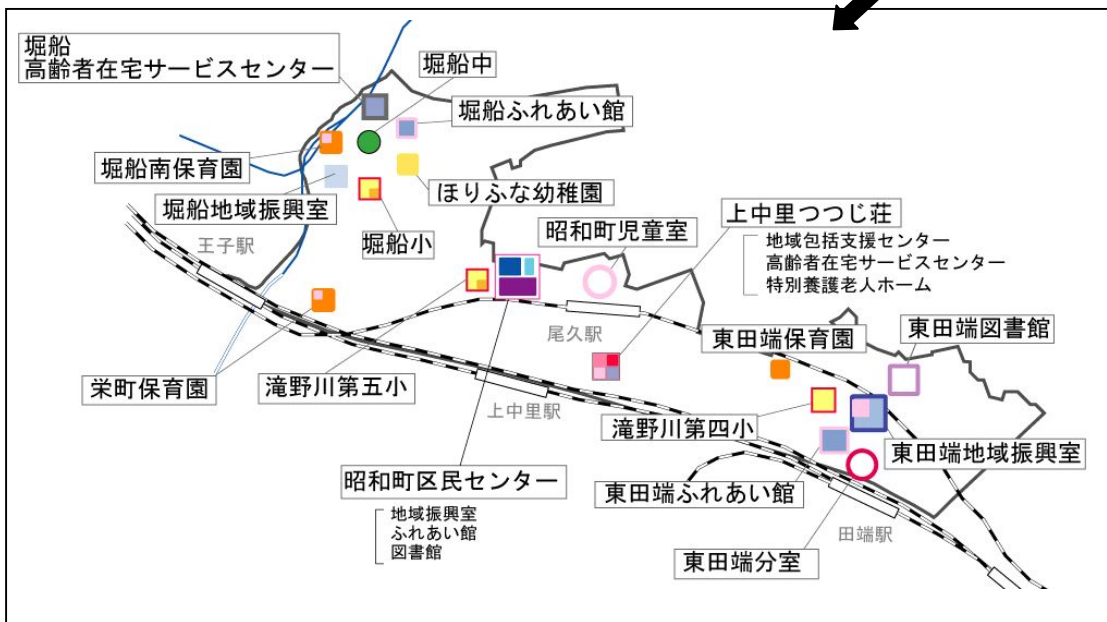
現状、年少人口比率（8.4%）は、区全体でみた数字（9.7%）を下回っています。今後上昇するが、平成 31 年に 9.2%を示した後は低下に転じ、平成 40 年には 8.3%となり、7 地区の中では最も低くなります。

〈人口構成及び変化〉



データ出所：
 北区人口推計調査報告書（平成 20 年 3 月発行）
 北区行政資料集（平成 22 年 9 月発行）
 北区人口統計表

図 滝野川東地区 公共施設配置



① 用途ごとの実態把握（滝野川東地区）

■地域コミュニティ施設

2 館あるふれあい館のうち、東田端ふれあい館は単独館です。利用者数は昭和町ふれあい館が4.7万人、東田端ふれあい館が3.2万人です。

東田端地域振興室の会議室の利用が多くなっています。

滝野川区民事務所東田端分室の利用は年間約1.2万件で、区内では最も低くなっています。

東田端図書館の年間利用者は約12万人です。

■区民センター等複合施設

区民センターは1施設（昭和町区民センター）あります。その他にふれあい館、地区図書館の単独館があります。

■学校

小学校は3校あり、堀船小学校の普通教室は36教室あり、普通学級として12教室使用しています。滝野川第四小学校の普通教室は22教室あり、普通学級として11教室使用しています。滝野川第五小学校の普通教室は30教室あり、普通学級として8教室使用しています。

中学校は地区内で堀船中学校1校のみとなっています。堀船中学校の普通教室は29教室あり、普通学級として6教室使用しています。

北区の中で年少人口の割合が8.4%と低く、平成40年には北区内で最も低くなることが予測されています。

■児童施設

区立保育園が3園、区立幼稚園が1園あります。児童館が1館、児童室が2室ありますが、児童室は児童館の分室として設置している小規模な施設です。

② 地域としての課題（滝野川東地区）

<施設の老朽化対応検討>

小学校、中学校は全て築30年以上のため、老朽化対策が必要です。また、保育園も3施設のうち2施設について老朽化対策が必要です。

<複合施設のあり方検討>

滝野川東地区では、単独館と複合施設が混在し、各施設の設置状況は様々であるため、地区の特性に合った複合施設のあり方を検討する必要があります。

<今後のニーズへの対応と施設サービスのあり方>

施設の利用促進と、運営の効率化を図っていく必要があります。

JR線により、地域が分断されている状況を考慮し、利便性が損なわれないよう、施設の配置の検討を含め運用の効率化を図っていく必要があります。

